

全国助産所分娩基本データ収集システム2018 集計結果報告

安達久美子

I. はじめに

2013年4月より、全国助産所分娩基本データ収集システム（以下、IT）が開始されました。本稿では、2018年分を報告します。データ分析期間のITの利用者は、本会所属の助産所の80.4%（2018.11月現在）でした。

II. 集計方法

2018年1月1日～2018年12月31日の間に出産し、ITシステムに登録されたデータのうち、助産所、自宅での出産となった2,967件のデータを対象としました。データの未入力、途中で転院になった者等は除外しています。

III. 集計結果

1. 妊産婦の背景

分娩歴は、初産婦545人（18.4%）、経産婦2,422人（81.6%）でした。1回経産婦1,245人（42%）で最も多く、次いで2回経産婦が827人（27.9%）でした（表1）。

平均年齢は、初産婦29.6（±4.8）歳、経産婦33.2

表1 分娩回数

経産回数	件数	%
0	545	18.4%
1	1,245	42.0%
2	827	27.9%
3	256	8.6%
4	58	2.0%
5	22	0.7%
6	9	0.3%
7以上	5	0.2%
合計	2,967	100.0%

（±4.5）歳でした。2017年とほぼ同様でした。初産婦では35歳未満が83.9%、経産婦では60.1%で、これも前年とほぼ同様でした。

2. 妊娠期について

初診時の妊娠週数は、平均が17週で、20週までが70.1%を占めました。予定日の算出にあたっての根拠は、最終月経のみ25.0%、超音波のみ54.2%、両方20.8%でした。これらも、前年と大きな違いはありませんでした。

妊娠中に何らかの異常が認められたのは、初産婦7.9%、経産婦8.3%であり、2017年と大きな差はありませんでした。異常の項目では、母子感染の危険性が最も多く3.9%、切迫流産が3.0%でした。33週以降のGBS検査で陽性は3.3%でした。貧血（Hb9.0/dl未満）は0.5%でした。

3. 分娩期について

分娩場所については、助産所92.1%、自宅6.0%、オープンシステムは1.9%でした（n=3,024）。分娩場所の割合については、2017年とほぼ同様でした。経産婦におけるリピーター（前回も同じ助産所での出産）の割合は42.7%でした。

分娩所要時間の平均は、初産婦13時間29分、経産婦5時間16分でした。初産婦で30時間以上を要したのは4.0%、経産婦で15時間以上を要したのは3.1%でした。分娩時の妊娠週数は、39週が最も多く38.1%、次いで40週が33.8%でした。37週未満が0.4%、42週以降が0.1%でした（図1）。

前期破水は、初産婦14.9%、経産婦8.5%でした。分娩時の出血量は、初産婦で379ml、経産婦で356mlでした。分娩時の出血量が500ml以上であっ

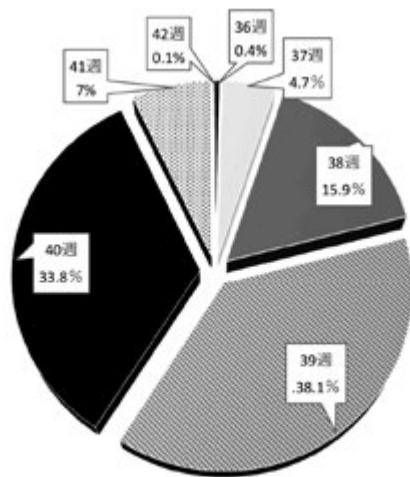


図1. 分娩時の妊娠週数

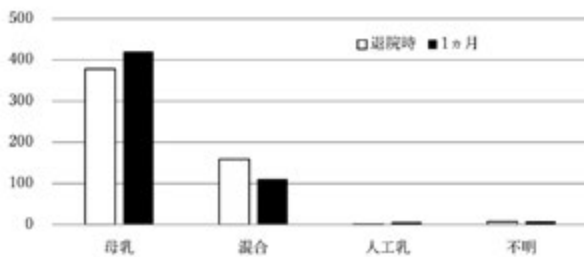


図2. 児の栄養方法別の人数（初産婦）

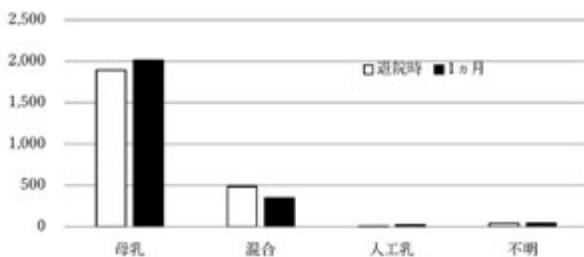


図3. 児の栄養方法別の人数（経産婦）

たのは、初産婦で23.1%、経産婦で19.4%でした。

会陰裂傷は、初産婦では、無36.5%、I度49.0%、II度13.4%、III～IV度はありませんでした。経産婦

では、無63.8%、I度29.5%、II度6.4%、III度は1件のみでした。膣壁裂傷は、初産婦0.7%、経産婦0.2%でした。

分娩時の家族立会い（複数回答）は、夫82%、子ども48%、実母21%、その他10%でした。

4. 新生児について

出生時の児体重の平均は、男児3,205（±355）g、女児3,084（±355）gでした。

出生5分後のアプガースコアは、8点以上が99.6%でした。

出生直後の児の異常では、呼吸障害（多呼吸・陥没呼吸・呻吟・鼻翼呼吸・シーソー呼吸・不規則な呼吸・その他）が最も多く1.5%でした。次いで、外表異常が0.2%でした。

5. 栄養方法

退院時の児の栄養方法は、初産婦（図2）で母乳のみが69.4%、混合29.2%、人工乳0.2%、経産婦（図3）で母乳のみが78.2%、混合20.0%、人工乳0.3%でした。産後1か月の時点では、初産婦で母乳のみ77.1%、混合20.4%、人工乳1.1%、不明1.5%、経産婦では、母乳のみ83.2%、混合14.3%、人工乳0.9%、不明1.7%でした。

IV. まとめ

前回（2017年1月～2017年12月）までの3,341件のデータと比較して、大きく変わったところはありませんでした。

分娩データ数は、2015年が4,154件、2016年が3,734、2017年が3,341件、2018年が2,967件となっており、年々減少の傾向にあります。

ITシステムについては、今年度夏を目安にリニューアルの予定です。